

えりもしゃくなげ



発行者 教育長 川上松美 (代)01466-2-2525

<http://www.town.erimo.lg.jp/section/>

[kyouiku/sg6h94000000pqh.html](http://www.town.erimo.lg.jp/section/kyouiku/sg6h94000000pqh.html)

えり小4年生の授業から

「自らを学ぼう」という姿勢 が一段と身に付いてきました

○5月13日（月）、えりも小学校4年生の国語の授業を参観しました。

○19名は伊東正子先生のもとで、授業に集中して取り組んでいました。

○伊東先生は、この4月に帯広市立明和小学校から赴任しました。えりもは初めての地ですが、まだ慣れない中で児童をしっかりと受け止めて指導に努めていました。

○児童も正しい姿勢（立腰）で先生の話もしっかりと聞きながら取り組んでいました。

○写真は、5時間目の国語「单元名 けっかとかえとのつながりをとらえよう『花を見つける手がかり』」です。



○大切なことは、児童が授業開始と同時にスイッチを切り替えて、学びの気持ちになり学習に臨むことができるかです。
○当日は給食後でもあり、集中することが難しい時間帯でしたが、児童はとても真剣に参加していました。このことは、学級全体、学びの心構えが身に付いている証と言えます。



えりも中訪問から 落ち着いた3学年の姿勢



○5月21日（火）、旭川市立神楽中学校から赴任した日下大地先生の授業を参観しました。

○3年生39名は、社会「第二次世界大戦と日本」という単元を勉強していました。○生徒は「戦争に至った原因と回避するためにどうすべきであったか」を考え、さらに自らの考えを深めるため、他の人と考えを交流するなど、落ち着いた態度で授業に臨んでいました。

○当日の授業は、『協働的な学び』を目指して学習形態を工夫し「なぜ」を考えさせるなど、個の考えの質を高めるものとなっていました。

懇談の中で「時を守り、場を整え、礼を正す」という言葉に接し、熱い指導観が伝わってきました

○ある先生との懇談の機会があり、先生は『時を守る（チャイムを守ることはなぜか、落ち着いた学級管理）、場を整える（落ち着いた学びの環境づくり、朝の15分の読書や学習もその一つ、一日のスタートの落ち着き）、礼を正す（あいさつ、言葉遣い、目も挨拶）』と、自らの指導観を熱く語ってくれました。

○この言葉は、家庭教育でも結び付くと思います。この思いを学校も家庭も一致して共有し営み続ければ、一層、子どもの成長を確かなものに導くことになると思います。



算数専科の授業とは

○専科授業とは

・中学校同様、小学校でも専門の教科の先生が1年間をとおして授業を行う形態で、今、文部科学省の方針として全国の主に高学年で進められています。

○二つのねらい

・算数は学年が進むにつれて習熟に差が出てきます。専科指導はその克服を図るための一つの方法で、学級担任ではなく教科担任が授業を行います。

・専科の先生が指導している時間は、学級担任の先生は指導に入らず、他教科の教材研究等の業務に専念します。

○えりもの取組

・当町では、数年前から中学校数学教師



が小学校を巡回し、高学年の算数を教えていました。本年度からは改善を図り、えりも小に配置し4・5・6年生と笛舞小の5・6年生を教えています。

・専科教員は4月に平取町立振内中学校から赴任した山村麻美先生で、丁寧に分かり易く教えてくれています。

板書を見たら、今日勉強することが分かる。板書は授業の設計図です



○板書整理は大切なものです。

・写真は5月に訪問した笛舞小学校3年生の算数「時刻」を題材にした内容です。構成を白いカードで『問』『考』『まとめ』として、『問』は何を求めるのか、『考』はどんな考えがあるか、『まとめ』は分かったことを書いています。板書は1時間の授業の設計図です。